

# 全国協議会 ニュース

2024年5月1日発行 第381号

発行所：特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会  
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階  
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365  
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和  
https://www.marrow.or.jp E-Mail:office@marrow.or.jp

## 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会への参加

3月21日(木)～23日(土) 東京国際フォーラム(東京都千代田区)で第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会(学会長谷口修一氏)が開催されました。全国協議会は口演で2題、ポスター発表で1題の演題発表を行うとともに、ブースを設営し協議会の活動をアピールしました。造血細胞移植の発展に永年貢献したとして前理事長の田中重勝副会長が造血細胞移植学会功労賞を受賞しました。



### 口演2題発表

全国協議会として「骨髄バンクのコーディネートの現状と課題」及び「骨髄バンクを介した移植患者の経済的負担軽減の提言」の2題を、骨髄・さい帯血バンクのセッションで口演(各12分間)しました。○骨髄バンクの移植コーディネーター期間が120日(4か月)もかかっており、欧米並みの60日～90日に改善する必要がある。コーディネートのシステム全面刷新、移植コーディネーターの診療報酬点数増点が不可欠と強調しました。○日本骨髄バンクでは、未だに約19万円(モデルケース)もの患者負担金が課されている。血縁者移植とさい帯血バンク

には患者負担金はない。早急な軽減・解消に向けての具体策を提言しました。(山崎裕一)

### ポスター発表

今回の学会では「30年以上変わらない骨髄バンクドナー登録活動の実態」というテーマでポスター発表しました。全国のボランティア団体の皆様から活動の状況、ご苦労やご意見をいただき、「いかに骨髄バンク設立からドナー登録推進活動はボランティア主体で続いてきたのか」ということをまとめ、学会に集まった医療関係者の方々に見ていただきました。移植コーディネーターの方には「皆様の活動に頭が下がります」、1年目の若いドクターには「知らないことばかりでした。ドナー登録します」とのお言葉をいただきました。皆様のアンケートご協力に感謝いたします。

(浅野祐子)

(学会功労賞受賞に関しては次号でお知らせします)

### 日本骨髄バンクの全国協議会事務局来訪

3月18日(月)、日本骨髄バンクの広報渉外部から戸田部長ほか、林様、鈴木様、桑山様が全国骨髄バンク推進連絡協議会の事務局に来訪され、東京都の大学での献血併行型登録会開催について意見交換しました。ボランティ

ア側は全国協議会、東京、千葉、埼玉、神奈川の11名が出席しました。患者さんのためにとの思いは一緒ですので、首都圏担当エリアの再構築について今後も意見交換をしていくことになりました。

### 佐藤きち子基金 申請条件緩和

「佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金」(佐藤きち子基金)は、移植治療をすすめられても経済的に厳しく治療に踏み切れない患者さんを支援する基金です。厳しい経済情勢が続く中、2023年度は助成件数、助成金額ともに大幅に増加しました。2024年3月17日(日)に開催された2023年度臨時総会で、佐藤きち子基金の財源を確保するために1,700万円の特定資産を積み立てることが承認されました。また、少しでも多くの患者さんの申請をお受けするために世帯収入の上限額を緩和しました。詳細は全国協議会事務局までお問い合わせ下さい。

#### 【佐藤きち子基金】

「このお金を骨髄移植を望みながら経済的な理由で移植できない患者さんのために使ってください」との言葉を遺した佐藤きち子さんのご寄付を基に1995年9月に設立されました。2024年3月末までに342人の方に9,600万円を超える助成を行っています。

移植に臨む患者さんのためにご支援  
をお願いいたします

ゆうちょ銀行  
〇一九(ぜろいちきゅう)店  
当座 0039724  
口座名義 佐藤きち子患者支援基金

### 骨髄バンクの最新情報をお知らせする

#### 骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDF(4月15日発行)より抜粋)

#### ■日本骨髄バンクの現状(2024年3月末現在)

|         | 2月     | 3月    | 現在数     | 累計数     |
|---------|--------|-------|---------|---------|
| ドナー登録者数 | 2,654  | 2,544 | 554,123 | 959,087 |
| 患者登録者数  | 187    | 194   | 1,652   | 68,586  |
| 採取数     | 骨髄     | 73    | 57      | 26,358  |
|         | 末梢血幹細胞 | 28    | 27      | 2,117   |
|         | 合計     | 101   | 84      | 28,475  |

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

#### ■3月の区別別ドナー登録者数

献血ルーム/850人、献血併行型集団登録会/1,616人、集団登録会/0人、その他/78人

#### ■3月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,081人/20代 92,873人/30代 136,220人  
40代 214,008人/50代 106,941人

#### ■3月の20歳未満の登録者 204人

(注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

## ブロックセミナー開催報告

### 関東・甲信越地区



3月24日(日)、関東・甲信越地区の2023年度ブロックセミナーを、埼玉骨髄バンク推進連絡会の協力の下、さいたま市浦和区にある埼玉会館で開催いたしました。2020年度～2022年度はコロナ禍によりリモートでの開催でしたが、第10波も本年2月をピークに収まってきたことから、予定通り4年ぶりに現地開催をしました。

今回は6団体より21名の参加がありました。セミナーはまず、梅田正造理事長の挨拶から始まり、続いて各団体からの一人一人の自己紹介と活動報告をしていただきました。

埼玉の会からは会長の笠原慶一さん及び数人のメンバーの方より、1月～3月の同会の会報を元に、3月に開催された医療相談会&患者・家族交流会

や、箱根駅伝沿道PR、さいたま市民活動センターフェスティバル参加の報告、新しい説明員デビューのお話などの報告がありました。東京の会からは、直近の会報を資料とした活動報告や松下倫子さんより登録会や土曜日の定例会の報告などを、千葉の会からは梅田会長より配布資料に基づく活動報告などがありました。

続いて神奈川の会からは、事務局の黒部光司さんより日赤との良好なコミュニケーションを駆使した登録会の報告等。群馬の会の金井正明さんからは、啓発事業や東京マラソン参加等の報告。骨髄バンク長野ひまわりの会からは代表の笠原千夏子さんより、NPO法人化により軌道に乗った活動の報告、同会独自のひまわりの種配布による活動の報告などがありました。

次に、全国協議会より提案事項として若木換副理事長よりお話をいただき、全国協議会が助成する事業共催助成金の有効活用の説明、及び都内に登録会場が多い割に説明員が不足していることから、近隣県からの説明員応援体制等の提案がありました。

最後に記念講演として、埼玉医科大

学国際医療センター精神腫瘍科教授の大西秀樹先生より、患者が抱える心の問題とその対応について、スライドを使った約1時間の分かりやすい説明をしていただきました。患者やその家族の多くは疾病により家庭や社会生活を含む様々なストレスを抱えており、うつ病等の精神疾患を発症される方も多く、これらが治療自体に悪影響を及ぼすことも多く、精神科医をはじめとした医療者が悩みを聴き精神面のケアをすることが治療に大変プラスとなることがわかりました。また、ご家族のストレスは患者さんと同程度かそれ以上であり、ご家族を含めて精神面からバックアップが必要なことを感じました。患者やご家族の体調悪化はストレスによるうつ病等の精神疾患が原因となることが多いことを認識し、周りが気付いてあげることが大切だと思いました。

終了後は浦和駅近くで懇親会を実施しました。大西先生を含め20名の参加があり、こちらでも親睦や個々の活発な情報交換が行われました。

(担当理事 館野守男)

### 九州地区



4月6日(土)福岡県のアクロス福岡にて九州地区ブロックセミナーを開催しました。集まったのは加盟4団体(5名)、3つの非加盟団体(7名)、以前は加盟団体に所属されていたOB(4名)。協議会から参加した若木換副理事長と九州地区担当理事である中村の合わせて18名が5年ぶりに顔を合わせた九州地区集合セミナーとなりました。非加盟団体さんが多い中でしたので、まずは協議会の活動についての説明。白血病フリーダイヤル、患者支援基金による経済的助成活動や、患者・家族向けハンドブック「白血病と

言われたら」、ドナーサポート活動などを紹介しました。OBで参加下さっていた医師の坂田浩章さんはハンドブックの初版の際に関わっておられ、当時患者やご家族からの相談を受けながら作られたという貴重なお話も聞くことが出来ました。病初期の患者さんや、ご家族にとって重要性のあるハンドブックには非加盟団体のメンバーさんも関心を寄せておられました。

参加者からの活動報告ですが、一人一人から自己紹介を含めた活動をスピーチいただきました。骨髄バンク設立運動から活動を続けておられる団体の方と、設立から6年の非加盟団体さんの活動は互いに刺激的であり、衝撃的でした。献血併行型ドナー登録会をするにあたっての内容は共通しており、貴重な情報交換となりました。協議会は患者ありきの活動です。現在に限ってですが各地域で頑張っている団

体へ協議会は事業共催助成金を活用していただく提案をしております。是非とも活用いただき、活動の幅が広がると良いと考えます。

非加盟団体さんから「他の団体のボランティア仲間と交流することができ、とても楽しかった。参加できて良かった」と感想を頂きました。

セミナー終了後は、さらにボランティアOBが増えて懇親会へ突入。夜桜と同じように頬を染めて盛り上がりました。(担当理事 中村福代)

**白血病フリーダイヤルを  
ご利用ください  
0120-81-5929**

病気のこと、心の悩み、治療費の心配など、どこに相談したらよいかわからないことがありましたらお電話ください。血液専門医も対応します。第2・4土曜の10時～15時までにおかけください。



**東日本大震災を忘れない！ 防災フェア開催しました！**



2011年3月11日、東北地方を中心に12都道府県で2万2,318名の死者・行方不明者が出た東日本大震災で被災した東北を応援するために、東京新都市ライオンズクラブと西新宿角三町会つづさんが主催する防災フェアは、震災の翌年

2012年から継続して13年目となりました。今年は3月10日(日)にいつもの新宿中央公園「水の広場」で開催されました。

当日の献血バスに配置する説明員は全国協議会から首都圏団体に募集を掛け、東京の会と埼玉の会から8名の説明員が参加してくれました。献血者は73人、ドナー登録者は10人でした。この会場での献血・ドナー登録はこの間4年開催しているため、すでにドナー登録をおこなった方も多く、既登録の割合が他会場より高いようです。それだけ実績を積んできたという証ですから、主催団体に感謝です。

会場ではブースを借りて、菓子パンとおめんを販売しました。パンは東京の会会員のご主人の会社「コボコボ」で仕入れた「あこ天然酵母の工場焼きたてパン」で、クリームパンやあんパン、クリームチーズやクルミ入りと、とても美味しい菓子パンで、昼過ぎには完売しました。おめんも子供ではなく当日演奏で出演した中学生の吹奏楽部女子たちに大人気で、在庫切れのおめんもありました。

地震発生の14時46分に被災者への黙とうをおこない、今後も継続して震災を忘れないことを会場全体で誓い合いました。

(若木換)

**笑顔が素敵なお人でした 弾ける笑顔との出会い**

3月17日(日)、献血併行型ドナー登録会がイオンモール天童(山形県天童市)で行われました。

いつものように、献血を待つ人に声をかけドナー登録をお願いしていました。時間も終わりに近づいた頃、1人の女性が微笑みながら私達に近づいてきました。聞けば「骨髄バンクにお礼が言いたいと思っていて、なかなか出会いがなくて…」とキラキラした笑顔で彼女は話してくれました。たまたま買い物に来て、私達を見かけてお礼が言いたくて、ほんとにありがとうございましたと言われました。

白血病になり骨髄バンクを通して移植をして今こうして元気でいられるとのこと、移植して1年になると話してくれました。

骨髄バンクがなかったら今はなかったかもと…そして一緒に連れていた男の子…小1くらいかな? この子も大きくなったら骨髄バンクに登録してママを助けるんだ! と言っていると頼もしい言葉を頂きました。

大好きなママが病気になって、どうしたらママを助けられるのかをパパに聞いたのかもしれませんが、18歳になったら待ってるよと男の子に声をかけました。

ドナーになって骨髄を提供しましたという方には、献血会場でもたまにお会

いします。

その時は素直にありがとうございますとお礼を述べます。しかし、献血会場で、移植を受け元気になりましたという方にお会いしたのは初めてでした。

私たちの活動がどこかの誰かのお役に立っている、そう実感した時間です。

シリーズ  
**「ありがとう桜」③**

2008年12月に日本骨髄バンクを介した移植が10,000例、さい帯血移植が5,000例に到達しました。そのことを記念して提供いただいたドナーさんに感謝し、また、移植を受けられなかった患者さんや闘病中の患者さんに思いを寄せて、2009年に全国各地の

たし、疲れも吹き飛んだ瞬間でした。あの男の子が周りの友だちに骨髄バンクを広めてくれるといいなとも思いました。純粋にママを助けたい! その気持ちをずっと持ち続けて、骨髄バンクのドナー説明員になってくれることを期待します。

(骨髄バンクを支援するやまがたの会 青木美由紀)



(4月7日撮影)



(4月19日撮影)



北海道

### 前を向いて生きる

3月22日(金)、当支部会員の安岡祐一さんが、病気になった体験談を北見市で行われたオホーツクメンタルヘルス懇話会でお話しました。

安岡さんは現在39歳、オホーツク地方の訓子府町で酪農を営んでいます。21歳の時にクローン病となり、その後、胸椎や脳に腫瘍が見つかり手術をして悪性リンパ腫の一つであると分かりました。そして、内臓にも腫瘍が転移し血球貪食症候群により余命1、2ヶ月と宣告されました。入院していた大学病院医師から「好きな物を食べ、やりたい事は何でも言ってくだ

さい」と伝えられました。辛いことに抗癌剤が効いてきて骨髄移植の対象になりましたが、妹さん2人や骨髄バンクの中にもHLA型が合う人はおらず、臍帯血移植を受けることになりました。そして、発病して2年後には仕事に復帰することができました。

それから8年経ち、歩くのに杖は欠かせませんが車を運転し車椅子バスケットボールをしています。闘病中は病気に絶対負けない強い意志を持ち、酪農の仕事に早く戻りたい気持ちがモチベーションになっていたようで、会場には酪農仲間の青年達も応援に来てくれていました。

来場してくれた方々へは“チャンス”を配布し、安岡さんのお話にもたくさんの質問があり予定の時間も足りなく



安岡祐一さん (経済の伝書鳩 提供)

なるくらいでした。安岡さんは「余命宣告を受けた自分がここまで回復出来たのは、臍帯血移植とお世話になった方々のお陰なので、自分が体験した事を話すことで感謝の気持ちを表したい。出ていかないと様々な方に助けて貰えた感謝の気持ちは伝わらない。どこにでも行こうと思っています」と話しており、若年性癌患者会やさい帯血バンクでの講演会に積極的に参加し、昨年は磐田市立病院の研修会でも話をしていますので、どうぞみなさま声をかけてあげてください。  
(北海道骨髄バンク推進協会北見支部 水元朋子)

奈良

### 奈良市役所 入庁式での講演会

奈良市役所の人事課から、いつも登録会の調整をしてくださる県の健康推進課の担当の方を経由して4月1日(月)の入庁式にて骨髄バンクの話をしてほしいという依頼がありました。担当部署としては、春の健康診断のときにドナー集団登録会を開催したいとの希望もありこのようなお話になりました。

奈良市では2020年5月に「骨髄移植ドナー支援事業助成金」制度を設け、その発表の市長記者会見に私も同席しました。仲川げん奈良市長はいつも市役所で実施する献血併行型ドナー登録会でのドナー登録数も気にしてくださりご支援いただいております。

新入職員の皆様は、新卒の方だけでなく、一般企業からの転職の方もおられて年齢も様々でした。当会からは私の病気の発症から骨髄移植に至る経緯、その経験から今の活動につながっている話をしました。若い方の献血の協力が減っていることもあり、骨髄バンクのことも知る機会が少ないので、まずは市役所献血に参加していただきたいとお願いました。そして、就業

中に献血に参加する職員さんのことも快く送り出してくれる職場であるように望みます。

「今、身近な人や知り合いに移植が必要な人はないかもしれませんが、でもたくさんの患者さんが移植を待っていることも事実です。これから携わる仕事は、このようなことに直接関係する方は少ないでしょう。でも、骨髄移植のドナー不足は私たちのかかえる課題の一つとしてとらえてもらうことはできないでしょうか」と問いかけてました。

(なら骨髄バンクの会 浅野祐子)

### 基金給付を受けた方からのメッセージ

#### 志村大輔基金 (分子標的薬支援)

3年前、急性リンパ性白血病を発症し、姉の血液を移植し退院となりました。予後も色々ありますが、今では初孫の成長を楽しみにしながら、近々職業訓練校に通うことになり、再出発したいと思います。抗がん剤の服用はあと数年の予定ですが、基金より支援していただけることとなりより励みになります。いつの日か恩返しができればと思っています。本当にありがとうございます。  
(九州地方在住 患者さん)

### 心からのご寄付に感謝申し上げます ●3月21日~4月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

|                    |                  |                    |
|--------------------|------------------|--------------------|
| ●一般                | 本田 真奈美 現金 5,000円 | 磯屋食堂 現金 14,259円    |
| らいらっくの会 現金 30,000円 | 日根 和美 現金 1,000円  | すし善 現金 4,400円      |
| 小林 保則 現金 10,000円   | ●募金箱             | 有限会社スバゴ 現金 31,200円 |
| 長岡 隆浩 現金 10,000円   | 株式会社 マルト商事       | グリーン薬局 現金 24,445円  |
| 朝比奈 邦子 現金 5,000円   | 現金 56,832円       | 岡本屋永吉商店 現金 4,004円  |
| 小泉 孝 現金 3,000円     | ジョイフルアスレチッククラブ   | フランス亭 現金 9,551円    |
| 原 雅道 現金 10,000円    | 現金 18,287円       | ●つながる募金            |
| 匿名 現金 5,000円       | トレーラーバーガー 99     | 現金 15,300円         |
| 匿名 現金 1,000円       | 現金 5,369円        | ●キモチと。             |
| ●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金 | Photo Studio any | 現金 3,659円          |
| 寺元 義人 現金 30,000円   | 現金 5,000円        |                    |

**活動資金の支援をお願いします** 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754  
普通 5666655

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会  
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。